意見交換会発表内容

テーマ	発表内容
連携した活動の効果	・お互いが持っている技術の習得、できなかったことができるようになるため技術の幅が広がる ・参加者の交流により科学反応が生まれる（マンネリの打破） ・作業が効率化することでマンパワーが上がる ・視野が広い個人指導をお願いできるベテランがいる ・ポジティブな空気感になる ・世代を超えた繋がりができることで若返る ・高齢の方でも足場が危なくない場所で手ノコの使い方等初歩的な作業を教えることができるため、知識、技能を若い世代に残せる
連携した活動の課題	・活動の持続が難しい部分があるため、遊びや楽しむ部分（食事や料理など）の活動も用意し、モチベーションをあげる ・団体ごとの安全確保等に対する意識の違いやギャップの埋め方や役割分担をどうするか ・慣れてない人が一緒にするため教える側に責任が出てくるので大人数に教えるのは難しいのではないか ・いきなり難しい作業はできないため、なかなか効率良く作業できないのではないか ・日程調整等どうやって人数を集めるのか ・新規団体は知識も機材も少ないため、センターの機材を有効活用する必要がある
連携した活動事例 （企業含む）	～現在やっていること～ ・長崎竹活Laboは歴史文化博物館で移動式遊び場を実施している ・TAKE NO ENは若い人達に実際に興味を持ってもらうため、南高の生徒や大学生に山に入ってもらい実際に活動してもらっている（できるかできないかくらいの目標にすると生徒もやりがいを感じる。丸太からコースターを作ったりして整備後に持ち帰れるものをがあると山での思い出ができていい） ・楽しみの森づくり会と風頭公園景観振興会は連携して活動しているため、知識の共有や拡がりを生み出しており、長崎南ライオンズクラブとの連携でもみじの名所作りを行っている ～今後やりたいこと～ ・別の団体が間伐した材を他の団体で利用する（要望：ヒノキでスウェーデントーチを作りたい、ベンチや小屋を作りたい、畑の肥料にするため灰が欲しい・竹チップがほしい） ・活動団体同士以外の企業や団体とのコラボ（企業が普段やっているイベントなどに参加させてもらう） ・月に1回メンマ作りで集まって情報交換の場をつくる
連携方法	・ボランティア支援センターが中心となり、ボランティア団体を繋ぐLineグループ等の作成、SNSを利用して他の団体の活動スケジュール等の共有を行う ・団体間の連絡網を作成し、実際に整備してほしくて困っている人がわかるような体制を作ってほしい ・各団体の得意分野等（樹木の専門家等）を一言入れた連絡網体制を作れれば、お互い困ったことがあった時に活用できるのではないか